

---

## 3 章

---

### ◆ 練習 3-1

---

#### 1. C D F

Cについて、一重引用符で囲えるのは1文字だけ。

Dについて、int 型の最大値は約 21 億 (2,147,483,647) なので、92147582694 は範囲を超える。  
92147582694L とすべき。

Fについて、一重引用符を二つ続けて書くことはできない。Nについて、"true"は文字列として正しい書き方。

#### 2. B E

Bについて、short は int よりも小さい。

Eについて、double の値に D または d を付けることができるが省略するのが普通である。

#### 3. G

47 ページの表を参照すること。

### ◆ 練習 3-2

---

#### 1. A=リテラル B=識別子 C=予約語 D=\_ F=\$

#### 2. C D H I

C は数字で始まっている。D は使用できない記号#を使っている。H も使用できない記号-を使っている。  
I は、識別子ではなくリテラルである。また、main は予約語ではないので変数名などに使っても間違いではない。

### ◆ 練習 3-3

---

#### 1.

- A. `int year;`
- B. `double weight;`
- C. `char sign;`
- D. `String name;`
- E. `boolean real;`

#### 2. D E F G H

A は、int 型の number に double の値 10.0 を代入している。B は、boolean 型の変数に文字列"true"を代入している。C は、宣言で型名を2度書いている。正しくは、`int n, m;` とすべきである。I も、宣言で型名を2度書いている。正しくは、`int n=1;` と `double a=1.5;` に分けるべきである。J は、同じ

変数名 `n` を2度使っている。 `K` は、`int` 型の `y` に、`double` 型の `x*2` を代入している。`x` は `double` なので、`x*2` は `double` になることに注意する。 `L` は、数字で始まる変数名を使っている。

### ◆ 練習 3-4

---

1. B C E

2. A

`a + n` のように `double` と `int` の値の混在した演算では、`int` を `double` に型変換した上で計算されるので、答えは `double` になる。表示すると7ではなく、7.0 となることに注意する。

3. C

`n + a` は `int` と `long` の演算なので、`int` を `long` に型変換した上で計算される。そのため答えは `long` になるが、`m` が `int` 型なので、代入できずコンパイルエラーになる。